

亀ヶ谷坂を抜け山内荘へ

祈りと鎮魂の路



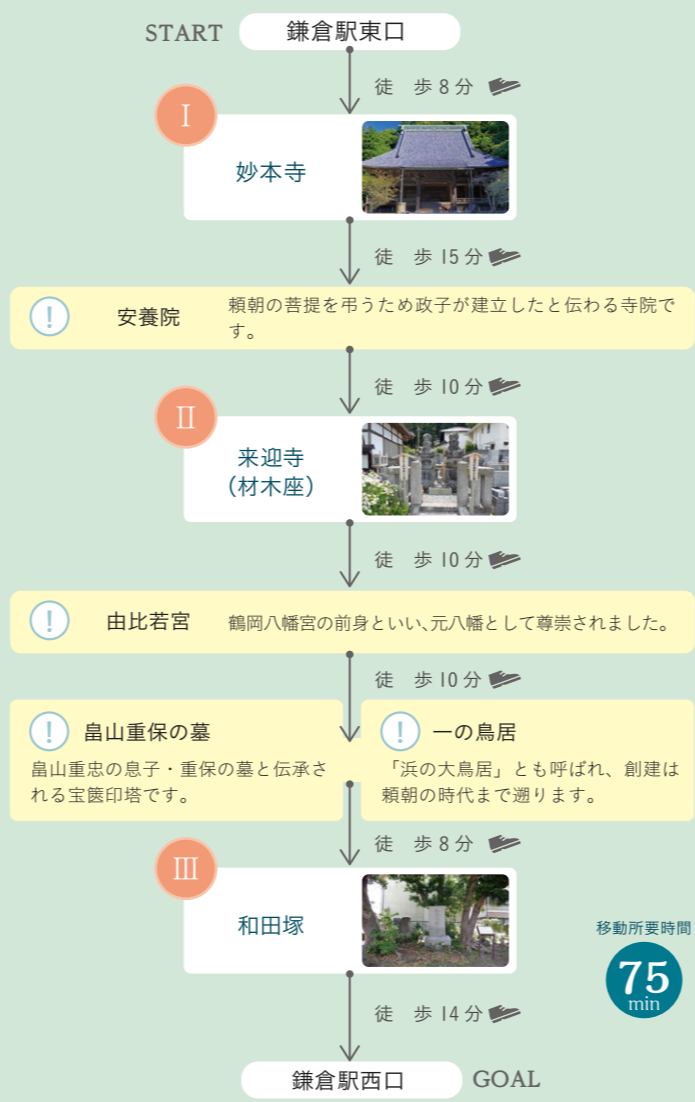
横大路から法華堂へ

いざ幕府草創の地へ



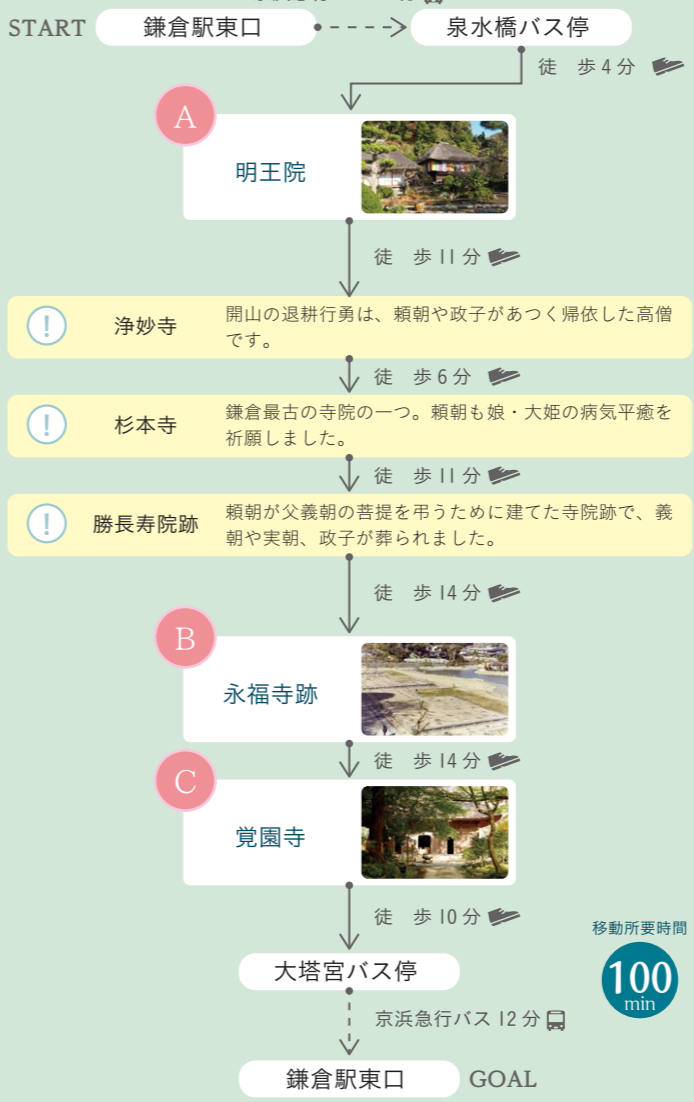
比企谷から大町大路へ

重臣たちの夢のあと



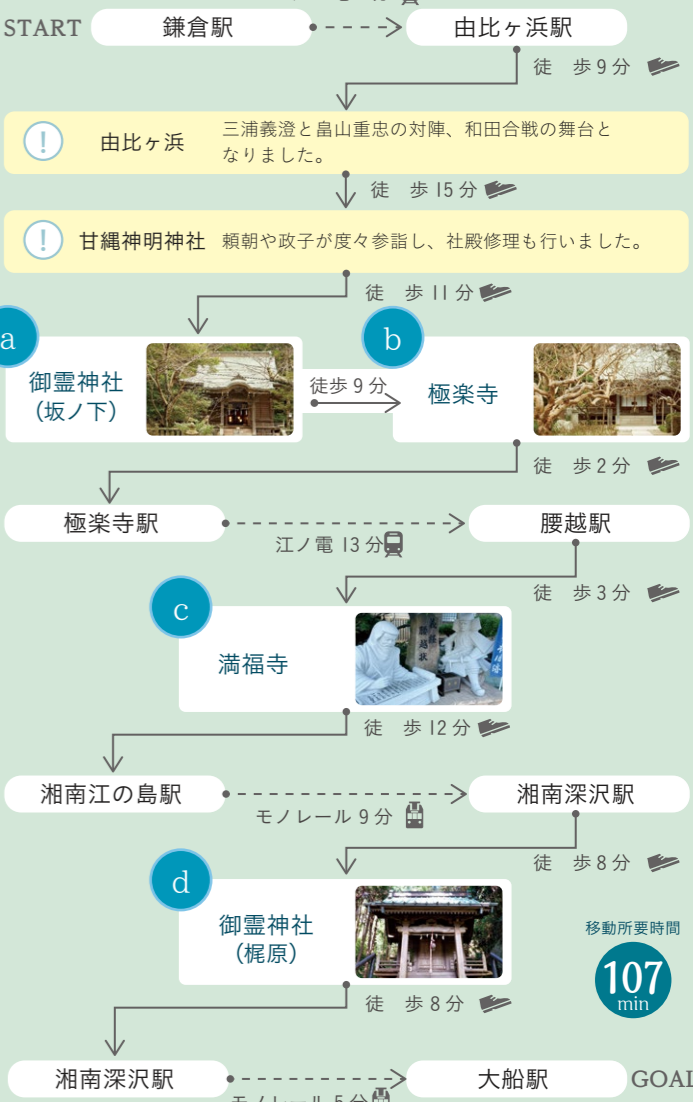
六浦路(むつらみち)をたどる

鎌倉殿の願い・義時の祈り



極楽寺坂を抜け腰越へ

鎌倉の境界と義経伝説



い わりょうじいんあと 無量寿院跡

鎌倉歴史文化交流館が建つ谷は無量寺谷と呼ばれ、近辺には安達氏の菩提寺・無量寿院や甘繩の邸宅があったと考えられています。敷地内の発掘調査では鎌倉時代後期の池の跡や礎石が見つかり、安達氏に関係する遺構の可能性が指摘されています。

❖ ゆかりの人物：安達盛長
❖ 鎌倉市扇ガ谷 1-5-1 (地図 C3)

ろ じゅふくじ 寿福寺

当寺の一角には源頼朝の父・義朝の館があったといわれ、その後、北条政子が明庵栄西を開山として伽藍を建立しました(現在、拝観は中門までです)。裏山の墓地にあるやぐらには、源実朝、北条政子の墓と伝わる五輪塔があります。

❖ ゆかりの人物：源頼朝・北条政子・源実朝
❖ 鎌倉市扇ガ谷 1-17-7 (地図 C3)

は けんちようじ 建長寺

北条義時以来、北条得宗家領となった山内荘に、5代執権北条時頼が建立した禅宗寺院です。山内荘は土肥氏の所領でしたが、和田合戦に与したことで没収され、義時に与えられました。建長寺三門では毎年7月15日に梶原景時の菩提供養のための施餓鬼会が行われています。

❖ ゆかりの人物：北条義時・梶原景時
❖ 鎌倉市山ノ内 8 (地図 C2)

に えんがくじ 円覚寺

山内荘に、8代執権北条時宗が建立した禅宗寺院です。国宝の舍利殿には、源実朝が宋から請来したという仏舍利が祀られています。鎌倉時代後期に建てられた舍利殿は火災で焼失。現在の舍利殿は、北条氏康が太平寺客殿(仏殿とも)を移築したものです。※舍利殿は常時公開されていません。

❖ ゆかりの人物：北条義時・源実朝
❖ 鎌倉市山ノ内 409 (地図 C1)

ほ じょうらくじ 常楽寺

北条義時の息子・泰時が妻の母の供養のために建立した寺院で、泰時の年忌供養も行われています。また「栗船山常楽寺略記」は北条政子が娘大姫と許嫁の源(木曾)義高の菩提を弔うため当寺を創建したとし、裏山には義高の首塚といわれる塚があります。

❖ ゆかりの人物：北条泰時・源義高・大姫
❖ 鎌倉市大船 5-8-29 (地図 A1)

1 つるがおほかまんぐう 鶴岡八幡宮

源頼朝が石清水八幡宮を由比郷鶴岡に勧請したことに由来します。治承4年(1180年)に源頼朝が現在地に遷し、放生会や流籠馬を奉納しました。以来源氏の氏神・幕府の守護社として御家人等の崇敬を集めました。

❖ ゆかりの人物：源頼朝・源実朝・北条義時
❖ 鎌倉市雪ノ下 2-1-31 (地図 C2)

2 ほうかいじ 宝戒寺

北条義時が屋敷を構えて以来、代々北条得宗家の邸宅があった場所に建てられた寺院です。幕府滅亡後、北条一門の菩提を弔うために後醍醐天皇が足利尊氏に命じて建立しました。

❖ ゆかりの人物：北条義時・歴代北条得宗家
❖ 鎌倉市小町 3-5-22 (地図 C3)

3 らいこうじ 来迎寺(西御門)

江戸時代、源頼朝の法華堂に安置されていた地藏菩薩・如意輪観音・跋陀婆羅尊者の三尊像を祀ります。地藏菩薩像はもと報恩寺の本尊で、後に太平寺・法華堂へと移されました。

❖ ゆかりの人物：源頼朝
❖ 鎌倉市西御門 1-11-1 (地図 D2)

4 ほっけどうあと 法華堂跡(源頼朝墓)

源頼朝の墳墓堂(法華堂)跡です。頼朝の生前に持仏堂として建てられ、没後に法華堂と呼ばれるようになりました。現在頼朝墓のある平場がその跡地であると考えられています。

❖ ゆかりの人物：源頼朝
❖ 鎌倉市西御門 2 (地図 D2)

5 ほっけどうあと 法華堂跡(北条義時墓)

北条義時の没後、供養のために建てられた墳墓堂(法華堂)の推定地です。発掘調査で堂跡の遺構が発見されました。背後には、三浦一族にゆかりがあると伝わる「やぐら」や、江戸時代に整備された大江広元等の墓所があります。

❖ ゆかりの人物：北条義時・三浦義澄・大江広元
❖ 鎌倉市西御門 2 (地図 D2)

6 おおくらばくふあと 大倉幕府跡

源頼朝が大倉に御所を構え、幕府を開いたことから、便宜上、大倉幕府といえます。頼朝の御所の周囲には、有力御家人の宿所や幕府の役所が置かれていました。現在の清泉小学校の敷地を中心とする地域にあったと考えられています。

❖ ゆかりの人物：源頼朝・13人全員
❖ 鎌倉市雪ノ下 3丁目 (地図 D3)

I みょうほんじ 妙本寺

妙本寺がある比企谷は、比企一族の屋敷跡とされます。境内には源頼朝の息子・一幡の袖塚や比企一族の墓と伝えられる石塔など、一族の悲劇を伝える伝承が残ります。比企能員の子・能本が後に日蓮聖人の弟子となり、日蓮聖人と一族のために堂を建てたのが妙本寺の始まりといわれています。

❖ ゆかりの人物：比企能員・竹御所
❖ 鎌倉市大町 1-15-1 (地図 C3)

II らいこうじ 来迎寺(材木座)

源頼朝が三浦義澄の父、三浦義明の冥福を祈って建立した能蔵寺があった場所とされています。本尊阿彌陀三尊像は三浦義明の守護仏と伝わります。敷地内には三浦一族や家臣の墓と伝わる五輪塔があります。

❖ ゆかりの人物：三浦一族
❖ 鎌倉市材木座 2-9-19 (地図 C4)

III わだづか 和田塚

北条義時と和田義盛の武力衝突(和田合戦)の結果、和田一族敗死の屍を埋葬した塚として、伝承されています。和田塚に近い由比ヶ浜一帯は、和田合戦の主戦場となった場所です。明治時代の道路工事で地輪や多くの人骨が掘り出されました。

❖ ゆかりの人物：和田義盛
❖ 鎌倉市由比ヶ浜 2丁目 (地図 C4)

A みょうおうじん 明王院

3代将軍源実朝が暗殺されると、北条政子や北条義時は頼朝の遠縁にあたる九条頼経を京都から鎌倉に迎え、4代将軍に擁立しました。当寺は頼経が御願寺として建立した寺院です。五体の明王を祀ることから五大堂とも称されました。近隣に大江広元を祀る大江稲荷があり、観音堂にはその御神体も安置されています。

❖ ゆかりの人物：九条頼経(三寅)
❖ 鎌倉市十二所 32 (地図 E3)

B ぶつふくじあと 永福寺跡

源頼朝が奥州合戦で亡くなった人々を供養するために建立した寺院の跡です。発掘調査により、本堂・阿彌陀堂・薬師堂が複層でつながり、池を臨む浄土式庭園をそなえた伽藍であったとわかり、建物の基壇、池等が復元整備されています。本堂は二階堂とも呼ばれ、地名にもなっています。近辺に居を構えた藤原行政は二階堂氏を称しました。

❖ ゆかりの人物：源頼朝・二階堂行政
❖ 鎌倉市二階堂 209 (地図 D2)

C かくおんじ 覚園寺

吾妻鏡に記された北条義時の危機を救った靈験をもつ戌神将を祀った大倉業師堂が、覚園寺の前身とされています。現在の業師堂に安置されている十二神将は室町時代のもですが、鎌倉北条氏の信仰を今日まで受け継ぐ寺院の一つです。

❖ ゆかりの人物：北条義時
❖ 鎌倉市二階堂 421 (地図 D2)

a ごりょうじんじや 御霊神社(坂ノ下)

鎌倉党の祖・鎌倉権五郎景正公を祀ります。鎌倉党は鎌倉郡などを拠点とした武士団で、梶原・大庭・鎌倉・長江・長尾氏等がいました。当社は源頼朝が鎌倉に入る前から鎮座していたと伝えられています。景正公命日の9月18日には、鶴岡八幡宮の放生会であつて行われていた舞楽面の行列に做った面掛行列が行われています。

❖ ゆかりの人物：梶原景時
❖ 鎌倉市坂ノ下 4-9 (地図 B4)

b ごくらくじ 極楽寺

北条義時と姫の前の息子・重時の山荘に造られた寺院で、重時の息子・長時らによって律院となりました。周辺はもと三浦氏の所領であったとする説もあり、後に重時がこの地を獲得し、山荘を建てました。

❖ ゆかりの人物：北条義時
❖ 鎌倉市極楽寺 3-6-7 (地図 A4)

c まんぶくじ 満福寺

寺伝では天平16年(744年)行基の創建で、承安年中(1171~75年)に高範が中興したといえます。当地は源頼朝の不興を被った源義経が逗留した地と伝えられています。義経逗留伝説は江戸時代の資料に見え、弁慶筆といわれる腰越状の写などが残ります。

❖ ゆかりの人物：源義経
❖ 鎌倉市腰越 2-4-8 (地図 A3)

d ごれいじんじや 御霊神社(梶原)

鎌倉党の祖・鎌倉権五郎景正公を祀ります。鎌倉党は鎌倉郡などを拠点とした武士団で、梶原・大庭・鎌倉・長江・長尾氏等がいました。鎌倉党の本拠地には景正公を祀る御霊神社があり、それぞれに鎌倉党の伝承が残ります。梶原地域は、鎌倉党の一流・梶原氏出自の地とされ、梶原景時やその一族にまつわる逸話が伝わります。

❖ ゆかりの人物：梶原景時
❖ 鎌倉市梶原 1-12-27 (地図 A3)





大船方面

至横浜 [J009][SMR]

大船駅

大船観音寺、神明神社、玉縄首塚、鎌倉芸術館、鎌倉行政センター、常楽寺、多聞院、熊野神社、大船高校、高野台、権兵衛踏切、六国見山森林公園、八雲神社、昌清院、湘南町屋駅、湘南モノレール、富士見町駅、妙法寺、成福寺、小坂小前、小袋谷

腰越方面

至藤沢

湘南江の島駅、江ノ島駅、片瀬江ノ島駅、腰越海岸、腰越海水浴場、浄泉寺、小動神社、小動岬、稲村ヶ崎

深沢方面

至湘南町屋・大船

湘南深沢駅、等覚寺、大慶寺、東光寺、御霊神社(梶原)

鎌倉歴史文化交流館

鎌倉の通史や出土品を紹介する博物館。2022年は北条義時とその時代に関連する展覧会を年4回開催する予定です。無量寺谷と呼ばれるこの谷には13人の重臣の1人、安達氏の菩提寺などがあつたと考えられています。

▶ 鎌倉市扇ガ谷 1-5-1

鎌倉殿の13人大河ドラマ館

2022年3月1日～2023年1月9日

2022年の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の放送に合わせて、大河ドラマの世界観を体感していただける大河ドラマ館を鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム内にオープンします。

▶ 鎌倉市雪ノ下 2-1-53 [鶴岡八幡宮境内]

※大河ドラマ館入館時にお渡しするパンフレットの提示で鎌倉国宝館・鎌倉歴史文化交流館へ各1回無料で入場できます。(2023年3月31日まで)

公式サイト

公式 Twitter

鎌倉国宝館

昭和3年に開館した歴史・美術の博物館で、鎌倉市域、近隣の社寺に伝来する彫刻・絵画など様々な文化財を展示しています。2022年は北条義時とその時代に関連する展覧会の開催を予定しています。

▶ 鎌倉市雪ノ下 2-1-1 [鶴岡八幡宮境内]

鎌倉殿・13人の重臣

治承4年(1180)、源頼朝は平家打倒の兵を挙げます。そのはじまりは、僅かな兵からなる「反乱軍」でしたが、勢力は瞬く間に膨れ上がり、新たな政権「鎌倉幕府」を創り上げていきました。頼朝のもとに集った人々は、自らの主の意を込めて、頼朝を「鎌倉殿」と呼びます。頼朝の死後、息子頼家が鎌倉殿を継承しますが、その地位は決して安定したものではありませんでした。この鎌倉殿を支える存在として選ばれたのが、北条義時をはじめとする13人の重臣たちでした。彼らは9人の東国武士と4人の文筆士で構成されていました。

- 北条 義時** (1163～1224) 頼朝の義弟。頼朝の死後、鎌倉幕府における北条氏の地位を確実なものにした二代執権。
- 北条 時政** (1138～1215) 北条義時や頼朝の妻・政子の父。有力御家人と競合し、北条氏の地位を高めた初代執権。
- 安達 盛長** (1135～1200) 頼朝の乳母・比企尼の親類で、伊豆の流入時代から頼朝に仕え続けた側近。
- 梶原 景時** (?～1200) 石橋山の合戦で頼朝の危機を救った、鎌倉郡梶原を拠点とする知将。
- 比企 能員** (?～1203) 頼朝の乳母・比企尼の養子で、北条氏と権勢を二分した。二代鎌倉殿・源頼家の義父。
- 三浦 義澄** (1127～1200) 源氏累代の家人・三浦氏の出身で義村の父。幕府の本拠地相模国の守護。
- 和田 義盛** (1147～1213) 三浦義澄の甥で侍所の初代別当(長官)。代々の鎌倉殿に近侍した重臣。
- 足立 遠元** (生没年不詳) 頼朝挙兵以前からの源氏の家人。文筆に長け公文所で活躍した武士。
- 八田 知家** (生没年不詳) 頼朝の乳母・寒川尼の兄弟。代々の鎌倉殿に近侍した重臣。
- 中原 親能** (1143～1208) 大江広元の義兄弟。鎌倉と京都の連絡役を務めた頼朝の知己。
- 大江 広元** (1148～1225) 京都から下った実務士。政所の別当(長官)として活躍した鎌倉殿の側近。
- 三善 康信** (1140～1221) 頼朝に京都の情報を伝えた下級文人貴族。問注所の初代執事(長官)として活躍した実務士。
- 二階堂 行政** (生没年不詳) 母方が頼朝と同じ熱田大宮司家。京都で財政のキャリアを積んだ実務士。

鎌倉の通史や出土品を紹介する博物館。2022年は北条義時とその時代に関連する展覧会を年4回開催する予定です。無量寺谷と呼ばれるこの谷には13人の重臣の1人、安達氏の菩提寺などがあつたと考えられています。

▶ 鎌倉市扇ガ谷 1-5-1

2022年大河ドラマ「鎌倉殿の13人」(NHK)

華やかな源平合戦、誕生する鎌倉幕府、権力を巡る男たち女たちの駆け引きー 源頼朝にすべてを学び、武士の世を盤石にした男 二代執権・北条義時。野心とは無縁だった若者は、いかにして武士の頂点に上り詰めたのか。三谷幸喜が贈る予測不能エンターテインメント! (NHK公式ツイッターより)

—	JR鉄道	卍	神社	●	バス路線・バス停	♿	トイレ
—	江ノ電	卍	寺院	—	ハイキングコース	♿	トイレ・車いす可
ℹ	観光案内所	Ⓜ	史跡・石碑	Ⓜ	避難所	♿	トイレ協力店(コンビニエンスストアなど)
🏢	市役所	Ⓜ	墓	Ⓜ	津波避難場所	P	駐車場
〒	郵便局	🏛	美術館・博物館	🏫	学校		

KAMAKURA 鎌倉殿 13人の重臣

ゆかりの地 周遊マップ

model course

MAP

鎌倉は2022年大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の舞台です。鎌倉に所在する鎌倉殿・13人の重臣ゆかりの地を巡ってきましょう。



鎌倉殿×13人の重臣たち 特設サイト